

平成29年度事業報告

<総括>

平成29年度も観光客やMICEの誘致をはじめ、当協会が事務局を担う各種イベントの実施、様々な機会、媒体を通じた旭川地域のPRや魅力発信等に取り組んでまいりました。事業の推進にあたり、役員の皆様方には、4委員会（総務、コンベンション・誘致、観光情報、企画・事業の各委員会）に参画をいただく中で企画立案段階から、また、個々具体的な事業実施にあたっては、多くの会員の皆様方にご支援、ご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

平成29年度は様々な事柄が節目を迎える年でもありました。先ず、6月に開催された家具の街旭川を代表するイベント「国際家具デザインフェア旭川」（3年に一度開催）は10回目を数え、5日間で延べ2万人余の入込があり、これを契機に一気に夏の観光シーズンが本格化したしました。7月1日には、これまで旭川はもとより北北海道の観光を牽引してきた旭山動物園が開園50周年を迎えました。それを記念し、JR北海道が新たに札幌・旭川間のラッピング列車「ライラック旭山動物園号」の運行を開始して道央方面からの誘客を促進いたしました。

また、当協会が実行委員会の事務局を担い、毎年秋（秋分の日）に実施している「こたんまつり」も60回の節目の年に当たりました。5月～8月にかけて、プレイベントとして「こたんカフェ」を神居古潭で複数回試みたほか、60年の歩みを振り返る回顧展を開催するなどして好評を得ました。

一方で、当協会は昭和62年8月に九州の公益社団法人宮崎市観光協会と友好盟約を締結し、以降隔年で相互交流を行ってきていますが、29年度は盟約締結後30年目の年として宮崎側からの訪問団を迎える年で、旭川冬まつり初日の2月6日に市民訪問団27名を迎えて歓迎交流会を開催したところです。

旭川市がこの5月23日に発表した平成29年度の観光入込客数（次ページ「別掲」参照）によると、観光入込客数、宿泊延数、外国人宿泊延数のいずれも前年度を上回り、宿泊延数、外国人宿泊延数については過去最高を更新しております。道外客が増加しており、また、外国人についても、旭川空港以外の道内他空港を起点にしながら周遊して旭川入りする観光客が増えている状況にあります。

このような中、当協会が事務局を担う旭川市、当協会ほか周辺7町エリアの自治体及び団体等で構成する大雪広域観光圏推進協議会は、一昨年より日本版DMOによる観光地域づくりを目指して所要の事務を進めてきましたが、その推進組織となる「一般社団法人大雪カムイミンタラDMO」が平成29年10月に設立、翌11月28日に国（観光庁）の認定（登録）を受けました。今後はDMO法人自らがカムイスキーリンクススキー場の管理運営を担いながら広域による冬季スノーリゾート地域の創出を目指す一方で、様々なデータ分析をもとに当地域の観光の牽引役となることが期待されているところです。

以上を総括として、以下個々の事業等について説明いたします。

平成29年度観光入込客数について

〔平成30年5月23日発表〕
旭川市観光スポーツ交流部

1 観光入込客数

5,357,000人（対前年同期比100.9%）

・平成28年度 5,310,000人（対前年同期比 96.0%）

・平成27年度 5,530,000人（対前年同期比104.4%）

2 宿泊延数

935,600泊（対前年同期比109.2%）

・平成28年度 857,100泊（対前年同期比106.2%）

・平成27年度 807,200泊（対前年同期比108.4%）

3 外国人宿泊延数

205,764泊（対前年同期比109.2%）

・平成28年度 188,365泊（対前年同期比123.8%）

・平成27年度 152,182泊（対前年同期比176.5%）

4 内訳

区 分	観光入込客数 (人)			宿泊延数 (泊)	外国人宿泊延数 (泊)
	うち道外客(人)	うち道内客(人)			
平成29年度	5,357,000	2,666,000	2,691,000	935,600	205,764
平成28年度	5,310,000	2,519,400	2,790,600	857,100	188,365
平成27年度	5,530,000	2,568,800	2,961,200	807,200	152,182

5 特徴

観光入込客数、宿泊延数、外国人宿泊延数のいずれも前年度を上回り、宿泊延数、外国人宿泊延数については過去最高を更新した。

日帰り・通過客を含む観光入込客数は、道内客が減少したものの道外客が増加し、全体では対前年度0.9%の微増となった。

道外客の増加に伴い、宿泊延数は対前年度9.2%の増加となり3年連続で過去最高を更新した。

外国人宿泊延数は、対前年度比9.2%と伸び率が鈍化したものの、4年連続で過去最高を更新した。

国・地域別では、上海からの国際定期便の運休の影響などにより中国が前年度に比べ20%減少したものの最も多く、次いでタイガーエア台湾が定期チャーター便から本年3月に定期便就航となった台湾が続ぎ、香港、タイ、韓国の順となった。

◆国（地域）別の宿泊延数は以下のとおり。（ ）内は前年度

1位 中国	59,330泊（74,190泊）	対前年度比 80.0%
2位 台湾	31,384泊（23,437泊）	133.9%
3位 香港	28,422泊（19,697泊）	144.3%
4位 タイ	25,463泊（22,787泊）	111.7%
5位 韓国	19,618泊（12,153泊）	161.4%